

はじめに

セーブ・ザ・チルドレンは、国連に公認された子ども支援の国際 NGO です。2011 年 3 月、震災が発生した直後から、私たちは東北で、緊急・復興支援活動をしています。

『とっさのひとこと』開発のきっかけは、2012 年 6 月より岩手県、宮城県の学童保育施設や児童館の子どもたちと指導員を対象に NPO 法人プラス・アーツと行ってきた防災研修でした。この研修の中で、地震や津波を経験した小学生の子どもたちから「避難する時に本を持って行く。避難所で暇なときに読めるし、夜は枕にもなる」「非常持ち出し袋の中に時計を入れておく。電気が止まって時計が動かなくなった時に、自分の時計を持っていれば時間が分かるから」などさまざまなアイデアが出ました。その声を機に、東日本大震災の教訓を伝える防災教育教材開発に着手しました。弊会の支援活動の中でご協力いただいた地域の方々から、災害時の様子や避難生活の体験談を聞き、教材を通して子どもたちに伝えたいメッセージをまとめました。

東日本大震災の学びから、日本をはじめ世界の子どもたちが、地震や津波も含めた災害から身を守るための知識を得るだけでなく、災害が起きた時に自分で考え、行動できる力を身につけることが大切だとわかりました。そして、災害前、災害時、災害後、子どもたちが受け身ではなく主体的に行動できること、子どもの視点に立った取り組みが多くの地域で行われることを目指して、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは活動していきます。

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

『とっさのひとこと』は、東日本大震災の被害を受けた岩手県、宮城県の 50 名の方々へのヒアリング結果をもとに制作した防災教育教材です。被災した場所は沿岸部・内陸部などさまざま、職業も学童保育指導員や保育士、小学校教員、行政職員、自治会役員、個人商店のオーナー、主婦、高校生など多様な立場の方々からお話を伺いました。

そして、伺ったお話の中から、「苦労したこと」や「役に立ったこと」など子どもに伝えておくべき教訓を抽出し、「漫画」という表現に落とし込みました。設定した全てのシーンで最後のコマの吹き出しにセリフが入っておらず、そこに入る“とっさのひとこと”を考えてもらう仕掛けになっています。登場人物と同じ状況を疑似体験することで、子どもたちが被災者のおかれた環境やその時の気持ちを理解し、いざという時に主体的に行動できる力を身につけてもらうことを目的としています。

私たちは 2005 年、阪神・淡路大震災 10 周年のプロジェクトで、神戸の被災者の方々から同じように話を聞き、そこから得た教訓をもとに、ワークショップやゲームなどを開発しました。そして、それらの教材は、当時から 9 年経った現在でも、防災教育の最前線で活用されています。本教材も東日本大震災から得られた教訓や知見をわかりやすく伝えるツールとして、日本国内はもとより、世界の防災教育の現場にも広げていきたいと考えています。

学校や地域活動などで防災教育を担っておられる皆さま方にとって、この教材が一助になれば幸いです。

NPO 法人プラス・アーツ

防災教育教材「とっさのひとこと」の使い方

「とっさのひとこと」は、① 状況シート、② 教訓シート、③ 解説から構成され、学校、イベント、ワークショップなど、さまざまな場でどなたでも使える教材です。参加者の年齢や人数、用いる場所などによって、以下の方法を組み合わせて使います。

全体の進め方



状況シート

1 状況シート

状況シートは、災害時に起こりうる状況を3コマ漫画で表しています。進行役は1コマ、2コマ、3コマと状況の説明をし、参加者は3コマ目にある空白の吹き出しに入るセリフを考えます。

① 進行役は状況を説明する

例1 状況シートを1コマずつに分割して示し状況を説明

例2 状況シート全体を示して状況を説明

② 参加者はセリフを考えて、発表する

例1 口頭でセリフを発表

例2 配布された状況シートに個人でセリフを書き込み、発表

例3 配布された状況シートにグループでセリフを書き込み、発表

例4 掲示された状況シートを見ながら付箋などにセリフを書き込み、貼り出す

※セリフには、気持ちを表す言葉や行動を促す言葉が入ります。



教訓シート

2 教訓シート

教訓シートは、状況シートで設定された状況への対応を漫画で示しています。セリフを考えた後に示し、教訓を説明します。



解説

3 解説

解説には、■状況シートの説明、■教訓シートの説明、■東日本大震災の教訓が書かれています。教訓は、岩手県と宮城県の50名の子どもと大人へのインタビューから抽出したものです。どなたでも、解説を読みながら、本教材を使うことができます。

状況シートの選び方

22ある状況シートは5つのテーマ〔災害への備え〕〔地震後、津波が起こったら〕〔被災生活の工夫〕〔避難所で心掛けること〕〔被災生活で大切なこと〕に分類しています。これらのシートは、使う場所、参加者、時間などに応じて選んで使うことができます。選び方のヒントは、以下の通りです。

1 1つのテーマについて学ぶ

上記5つのテーマから、学びたいテーマを選びます。

例1 〔災害への備え〕の5つすべての状況シートを学ぶ

例2 〔災害への備え〕から、2. 非常持ち出し袋を準備しておく、4. 連絡方法を決めておく、の2つの状況シートを選ぶ

2 複数のテーマについて学ぶ

学びの目的に応じて複数のテーマから、状況シートを選びます。

例1 「災害への備えと迅速な避難行動について学ぶ」

〔災害への備え〕 2. 非常持ち出し袋を準備しておく

〔地震後、津波が起こったら〕 6. すぐに避難する

例2 「災害後の生活について学ぶ」

〔被災生活の工夫〕 13. 水を節約する、15. ライトを使い分ける

〔避難所で心掛けること〕 17. 食べ物を分け合う

3 発達段階に合わせて学ぶ

参加者の年齢に合わせ、状況が明瞭で簡単な説明で理解できるものや、状況を深く掘り下げて話し合ったりできるものを選ぶこともできます。

小学校低学年……………〔災害への備え〕 4. 連絡方法を決めておく、5. 集合場所を決めておく

小学校中学年……………〔災害への備え〕 2. 非常持ち出し袋を準備しておく

〔地震後、津波が起こったら〕 7. 海や川から離れる

小学校高学年……………〔地震後、津波が起こったら〕 8. 先頭に立って逃げる

〔被災生活の工夫〕 13. 水を節約する

中学生……………〔災害への備え〕 1. 家具が倒れないようにしておく

〔避難所で心掛けること〕 19. 子どもが安心・安全に過ごせる場所をつくる

高校生以上……………〔地震後、津波が起こったら〕 9. 濡れた人を助ける

〔避難所で心掛けること〕 18. 赤ちゃんのことを考える

状況・教訓シート一覧



〔 災害への備え 〕

1. 家具が倒れないようにしておく
2. 非常持ち出し袋を準備しておく
3. 避難する道を考える
4. 連絡方法を決めておく
5. 集合場所を決めておく

〔 地震後、津波が起こったら 〕

6. すぐに避難する
7. 海や川から離れる
8. 先頭に立って逃げる
9. 濡れた人を助ける
10. 泥や水たまりに注意する



〔 被災生活の工夫 〕

11. いろいろな場所から水を取る
12. いろいろな物に水を入れる
13. 水を節約する
14. 身近な物で寒さをしのぐ
15. ライトを使い分ける



〔避難所で心掛けること〕

16. 譲り合いの気持ちをもつ
17. 食べ物を分け合う
18. 赤ちゃんのことを考える
19. 子どもが安心・安全に過ごせる場所をつくる
20. トイレを清潔に保つ
21. みんなで協力し合う

〔被災生活で大切なこと〕

22. 近所の人と助け合う

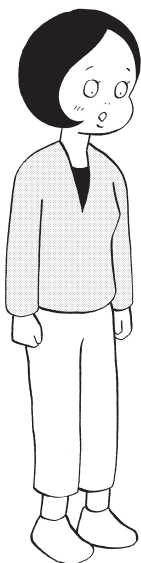


登場人物

お父さん



お母さん



兄
みなと



妹
みさき



友だち
だいち



友だち
しんたろう

